

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	2774200923
法人名	社会福祉法人 慶徳会
事業所名	グループホームふじい
訪問調査日	平成 20 年 9 月 4 日
評価確定日	平成 20 年 10 月 3 日
評価機関名	NPO法人 ナルク福祉調査センター

○項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。
番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

○記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

作成日 平成20年 9月 9日

【評価実施概要】

事業所番号	2774200923
法人名	社会福祉法人 慶徳会
事業所名	グループホームふじい
所在地	大阪府茨木市見付山1丁目3番29号 (電話)072-623-9602

評価機関名	NPO法人 ナルク福祉調査センター		
所在地	大阪府中央区常盤町二丁目1番8号 親和ビル402号		
訪問調査日	平成20年9月4日	評価確定日	平成20年10月3日

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

このホームの経営母体である社会福祉法人慶徳会については、すでに何度も紹介されている通り、設立以来60余年近く経過し、茨木市内でも有数の総合介護事業主である。最近、小規模多機能センターを立ち上げられ、児童施設も入れて全部で14種の介護施設・事業所を展開されている。地域の信頼度も非常に厚いと感じられた。当ホームもその一つであるが、近くに済生会茨木病院や博愛茨木病院(提携医療機関)などがあり、医療環境については恵まれている。又、同法人の経営になる児童養護施設「子供の家」ともよく交流し、孫のような子供と一緒に遊んだりして楽しんでいる。ホーム内には比較的広い菜園があり、季節ごとの野菜を植えられ収穫を楽しみ、食卓にもよくあがる。その他音楽療法や地域のレクリエーションボランティアも受入れている。職員の対応も丁寧で、ゆったりとした時間が流れている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回評価の改善点として、①重度化や終末期に向けた方針の共有、②プライバシーの確保の徹底の2点が指摘されていたが、①については、現在も家族の意見としてその時になってみなければ方針がたたないとか、逆にどういつ時期までこのホームで面倒を見てもらえるのかという意見が根強く、共有するまでに至っていない。②については、法人内外の研修結果をまとめ、全員で共有するなど改善がみられた。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>今回の自己評価についても、施設長のみならずミーティングなどで職員全員の意見を聞き、まとめ上げて改善点などを見い出していった。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>運営推進会議については、すでに2ヶ月に1度定期的に開かれている。出席メンバーもほぼ全員揃っている。市介護保険課からは、他ホームの状況や介護サービスの質の向上への取り組み方、家族の代表からは、色々意見や要望などが出ている。ホーム側からも、グループホームのあり方や夜間の非常災害時に対する支援など要請している。もちろんいただく貴重な意見はホームの介護サービスの質の向上への参考にしていく。</p>
	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>家族の来訪時、意見、苦情、不安など率直に言いやすい雰囲気作りに努めている。又、年1回無記名で家族にホームのサービスについてのアンケートを実施しており、いただく色々な要望などについては、ホームの運営の参考にしている。</p>
重点項目③	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>地域自治会や老人会には加入しており、ゲーム大会や食事会には参加している。地域のイキイキサロン(独居老人を中心にした会)とも積極的に交流している。散歩時には近隣の住民と明るく挨拶し、立ち話や畑の見学などを楽しんでいる。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>地域自治会や老人会には加入しており、ゲーム大会や食事会には参加している。地域のイキイキサロン(独居老人を中心にした会)とも積極的に交流している。散歩時には近隣の住民と明るく挨拶し、立ち話や畑の見学などを楽しんでいる。</p>

【情報提供票より】(20年 8月 4日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成 12 年 4 月 1 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	8 人
職員数	11 人	常勤 5 人, 非常勤 6 人, 常勤換算 6.9 人	

(2)建物概要

建物構造	木造 造り		
	1 階建ての	階 ~	1 階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	45,000 円	その他の経費(月額)	24,000 円	
敷金	無			
保証金の有無(入居一時金含む)	無	有りの場合償却の有無		
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり 1,000 円			

(4)利用者の概要(8月 5日現在)

利用者人数	8 名	男性	1 名	女性	7 名
要介護1	3 名	要介護2	3 名		
要介護3	2 名	要介護4	0 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 81 歳	最低	70 歳	最高	90 歳

(5)協力医療機関

協力医療機関名	博愛茨木病院	朝倉歯科	茨木老人ホーム診療所
---------	--------	------	------------

2. 調査報告書

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	当ホームの理念として、「利用者の人権を尊重し、地域との交流を重視して利用者のニーズにこたえながら、家庭的な雰囲気の中で支援し、開かれたホームをめざす」とあり、充分地域密着性を感じる。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念については、職員や利用者および家族、お客様がよく目につくように玄関を入った廊下に掲示しており、職員に対しても毎日のミーティングや職員会議で徹底している。又、地域住民に対しては、運営推進会議の場で理解してもらっている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域自治会や老人会に参加していて、ゲームや食事会その他行事に参加している。又、地域のイキイキサロン(独居老人を中心とした会)とも交流している。散歩時には、近隣の住民には明るく挨拶し、立ち話をしたり、畑の花や野菜を見せてもらったりしている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価については、施設長など管理職だけでなくミーティング時などを通じて職員全員で検討し、改善点を見い出すよう努力している。外部評価の結果についても、全員で見れるよう廊下に開示するなどして徹底している。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議については、2ヶ月に1度開かれている。出席者についても、行政からは市介護保険課担当者、介護相談員、地域からは地域の福祉委員や民生委員、ホーム側からは利用者全員と家族代表および職員など多数参加している。もちろん得られた情報や意見についてはホームの運営の参考にしてている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市の介護保険課とは密接に連絡を取り合い、ホームの現状を報告しつつ、色々な相談ごとにのってもらっている。参考になるものについては、ホームの介護サービスの質の向上に役立っている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	家族の来訪時には、必ず利用者の現状を報告している。その他全家族には、ホーム便り「グループホームふじだより」を毎月送付し、各個人ごとにホームの生活状況を紹介している。必要な方には、家族から現金を預かり、金銭管理を行っている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会については、年1回開いていて色々意見や要望を聞くようにしている。又、家族の来訪時には意見や要望をはじめ何でも気軽に言うていただくような雰囲気作りを心がけている。又、年1回全家族にアンケートを実施し、無記名で色々意見や要望を記入してもらい、運営の参考にしている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	夜勤の職員についてはたまに異動があるが、幸い日勤帯の職員についてはここ数年離職者が無く、職員と利用者とは完全に馴染みの関係が保たれている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	現在、法人内外での職員研修(特に認知症研修など)については、職務に支障をきたさないよう、段階に応じて職員が順次受講している。それらをレポートにまとめ全員で共有するようにしている。ストレス軽減に向けた取り組みや向上心を持って働き続ける取り組みについても色々工夫している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	茨木市内のある同業者と活発に交流し、意見交換や情報交換を行いホーム運営上大変役立っている。市が2ヶ月に1度開く施設部会にも参加し、サービスの質の向上に役立っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前に本人やその家族に見学かたがたこのホームの雰囲気に馴染んでもらい、安心かつ納得して入居してもらえるよう工夫している。初回アセスメント時本人や家族から生活歴や性格、要望などできるだけ詳細に把握するようにしている。何度か面談するうちに職員と顔なじみになってもらい、不安を取り除く工夫をしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員が介護するというだけでなく、一緒に生活するという雰囲気作りを出すようにしている。利用者は人生の大先輩であり、調理、畑仕事、洋裁などを教えてもらったりしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	初回面接時すなわち入居前より本人の人生歴や性格、趣味などを詳細に把握し、フェースシートを作成し職員全員で共有している。本人とのさり気ない会話の中からも希望や意向をつかむようにしている。		
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	まずカンファレンスを開催し、本人がより良く暮らしているよう、本人の希望や家族の意向、かかりつけ医の意見などを参考にし、職員の情報、意見も取り入れて、介護計画を立てている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	ケアプランの見直しは、原則3ヶ月に1度実施している。カンファレンス時、利用者の日々の健康状態やケア日誌の中で少しでも変化が見られると、本人や家族その他関係者との話し合いがもたれ、現状に即したケアプランを組み立てている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	規則に縛られることなく、利用者の状態に応じて柔軟に支援している。例えば、年2回の健康診断の実施、認知症専門医の受診支援、提携病院と連絡を密にして早期退院への支援、理容ボランティアを利用した身だしなみの支援などがある。		
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族が望めばかかりつけ医の受診を支援している。又、併設の診療所もあり、常に健康状態を利用者と共有し、家族にも連絡し確認してもらっている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	家族の来訪時あるいは運営推進会議などで、重度化あるいは終末期のあり方について話し合うが、「その時になってみないと分からない」という家族もあり、まだ方針を共有するまでには至っていない。	○	本人や家族の重度化への認識の違いが主な原因とのことである。例えば、内臓疾患や骨折など具体的なマニュアルなどを作成し、本人および家族、かかりつけ医、ホーム側とできるだけ早い機会に共有されることを期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	法人内には、内部研修の講師が在籍しており、伝達研修を行っている。トイレ誘導や失禁時の対応など職員の気配りがみられる。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	毎日その日の暮らし方をゆったりとしたペースで利用者本人に決めてもらっている。同法人内の他の施設ともよくレクリエーション行事などを組むが、参加するのは本人の自由になっている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立については、できるだけ利用者の好みを尊重し、食材についても、新鮮なもの、旬のものを業者より取り寄せている。また菜園で収穫した野菜もよく食卓にのぼる。利用者も大半食事の準備や後片付けを手伝っている。職員も同じものを一緒に食べ、食事の支援を行っている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	浴室は広くゆったりとしている。原則的に週3回の入浴であるが、利用者の要望に応じて臨機応変に対応している。暑い日にはシャワー浴で気分転換し、リラックスしてもらっている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者の生きがいへの支援ととらえ、色々な役割(鈴虫の餌やり、菜園の手入れ、植物への水やり、洗濯、掃除など)を果してもらっている。気晴らしとしては、地区老人会のイキイキサロンへ参加し、手芸、折り紙、お菓子作り、来年の干支の色紙書きなどを楽しんでもらっている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	朝夕、脚力に応じた散歩をしてもらい、それを記録表にして励みとしている。近隣のスーパーへの買物、喫茶店での語らいなど近隣の住民とのふれ合いを大切にしている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日常玄関には鍵をかけず、出入りは自由である。但し、安全のため小型受信機を取り付け、利用者の出入りには充分注意し、見守りケアを心がけている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署にも時々立ち会ってもらい、3ヶ月に1度は避難訓練を実施している。運営推進会議で、利用者や職員の避難についても、地域住民に支援してもらえるよう話し合いができています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	施設長自らが栄養士の資格をもっておられ、利用者一人ひとりの栄養バランスに気を配り、かつ食事の摂取量や水分の摂取量も充分チェックしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間は広くゆったりとしている。リビングには食事をする場所、テレビを囲んで気の合ったもの同士がくつろげるコミュニケーションスペースが設けられている。季節感を出す工夫として、花火大会や盆踊りなど楽しい行事の写真や絵が掲げられている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	各居室の入り口には間違いを防ぐ工夫として、本人自身の写真入りの大きな表札が本人の目線に合わせて掲示されてある。各部屋には使い慣れた家具や、家族・ご主人の写真、仏壇など思い出の詰まったものを持ち込んでいる。		